

●事業内容

1. たたら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動

(公益目的事業)

1) 講演会の実施

鉄の歴史文化、歴史資料の研究成果公開のため、鉄の歴史村フォーラム及び博物館講座を開催した。  
また、たたら製鉄技術の研究及び和鉄生産、加工の技術伝承者育成のため、近代たたら操業を実施した。

①鉄の歴史村フォーラム2012の開催

テーマ：～鉄の歴史村 たたら製鉄の実態を探る～田部家古文書調査からの報告3

期 日：平成24年11月10日(土) 13:30～17:00

場 所：吉田健康福祉センター 2階

講 師：佐竹 昭 (広島大学大学院教授)、和田美幸 (島根大学事務補佐員)

参加者：81名

参加料：1,000円(賛助会員は無料)

要 旨：

佐竹 昭 氏 講演

私は自然と人間との関わりを意識的に振り返る研究、つまり地域で皆が最大限いい暮らしをするため資源をめぐる争いをどう解決しどういう工夫をしてきたかえを知りたいと思っていますが、鉄山の場合だと、山林は鉄をつくる人にとってはたたら用の大炭や鍛冶屋用の小炭、農民にとっては田畑耕作のための草肥、建築に携わる人にとっては建材を得るため、さまざまな人の利害が複雑に絡み合っていました。すべての人にとって山は「宝の山」であり生活の糧を得ていくためエネルギーの源であったと言えます。人々には山では木の成長とともにいわば小さな石油タンクに燃料が蓄積されていくように見えたはずですが。

田部家は最終的に2万5千町歩の山林を持つに至り、出雲の方では他所と比べ鉄師がたくさん山を集め、明治以降もそれをもち続ける特徴がありますが、中でもなぜ田部家がそこまで大きくなったのかは国内の歴史研究家のみならず、地域の方も関心をお持ちだと思います。今までの研究では松江藩と密接な関係を持ち、鉄山を藩から与えられたという意見が多かったのですが、今まで参加した絲原家、櫻井家の調査および、今回の田部家の調査でも、一つ一つの鉄山を買い集める証文がほとんど原本で保管されていることがわかりました。そこでは地域の人達と山をめぐる争いを解決し、最大限の工夫をし、人一倍の努力をして経営をしてきたと思います。そういう観点から鉄山集積の実態と経営確立の問題を考え直す必要を強く感じ、最初に述べた自然と人間との関わりも共に考えながら研究を進めました。

田部家の鉄山集積と成長過程で、ただやみくもに山を買い集めるだけでなく運賃のかからない近接した地域から炭を供給するあり方、この経営方法がどのようなプロセスで実現されてきたか知りたかったのですが、鉄師が鉄山一つ一つをどのように買い集めたかという研究が全くありませんでした。そこで、それぞれの時期にどの山を購入し、その時期にどのたたら・鍛冶屋で操業していたかを調べれば、経営の中身の想像がつかうのではないかと考え、すでに県史に掲載された史料や今回の調査で見つかった鉄山証文などの史料を紐解きながら基礎的な部分をできるだけまとめました。

史料を紐解き、田部家の鉄山集積がわかる表を作成しましたが、吉田村で最初に購入した鉄山は杉戸芦谷鉄山で延宝元年(1673)8代五左衛門の時です。買い取った際の証文が存在せず、田部家発祥の鉄山と考えられるのが、元禄6年(1693)9代安右衛門が兄弟から購入した木ノ下の大次米鉄山であることがわかりました。

鉄山の購入の仕方は永代売り、年季売り、年季買戻し、年季戻りがあり、立木だけを買う場合もあるが、永代売りは地面から買う、年季買戻しは10年20年と年季を立てて売り買いしますが、具体的な中身はそれぞれの証文で異なっています。江戸時代前半は永代売りが多いですが、幕府による田畑永代売買禁止令のため、途中から年季売りが入ってきて、年季戻りが増えてきます。こうして、田部家は元禄の頃、集中的に鉄山を買い集め、18世紀までには主力鉄山ほとんど購入しています。

江戸の前半期松江藩の鉄山政策は藩の買鉄制で、鉄山は村や村の役人が経営していましたが、

操業はするけれども木がなくなり操業できなくなり、年貢を払えなくなり破たんし郡や藩の命令で肩代わりしてもらう人に永代売りをするようになります。そのときこの地域での肩代わりする役回りが田部家でした。そうやって、経営力のある鉄師が生き残ったところで藩は享保 11 年(1726) 鉄方方式で鉄師を保護し、鉄師が鉄を売って藩へ税金を納めるようにしました。こういう関係が調査を進めていくうちにわかってきました。証文にはそれまでの売買についても貼り継いであるので田部家が購入するまでのこともわかるようになっており、田部家にはそういう証文が山のようにあります。鉄山は江戸時代のはじめから散々売買され、ある段階で田部家に集められ経営者や持ち主が早い段階から動いていました。

具体的な証文を永代売り、年季(買戻) 売り、年季売り(戻り) と見ていきますが、いつだれがどこの山をどういう条件で買ったという単に形式的なものではなく、こういう証文のなかに天秤ふいごの使用や三日押し一代などたたら技術的な用語が出てきて、多くの重要な情報を持っていることに気づかされました。

田部家の鉄山集積とその成長過程を明らかにすることはそれだけでも難しいことですが、それだけが目的ではなく、地域資源をいかに分配し、地域全体の暮らしを支える仕組みをつくり、そこで どういう利害の対立を調整していったか、そういう知恵を現代でももっと知ることが大事ではないかという問題意識で史料を読みましたが、鉄山境の把握やなど今後も調査を続けていく必要を感じています。

#### 和田美幸 氏 講演要旨

私は 7、8 年前に絲原家、櫻井家の調査に参加し、今回の田部家古文書調査にも参加させていただきました。古文書を読むのがとても好きで、どちらかという鉄やたらは専門外で、社会、文化、人の生活といった分野に興味があります。今日は借家経営という直接たたらとは関係のないテーマではありますが、興味を持って研究していることについてお話しします。

松江藩と鉄師の関係をみていきますと、石見銀山資料館館長仲野義文氏の櫻井家古文書調査報告書の中で、田部家は主に大阪や兵庫に鉄を販売していたが、その一部を松江の鉄問屋(虎屋、肥後屋)に出荷し、その鉄問屋の手を経て大阪や北国へ販売しており、これが江戸後期になると松江の鉄問屋が成長してきた結果、鉄販売において中心的な役割を担うようになると書かれています。

田部家の資産形成については、相良英輔先生の『松江藩鉄師頭取田部家の研究』報告書の中で、昭和 12 年に田部家で資産の集積過程を調べ書き記した資料があり、宝暦・明和の頃の田地一覧資料からは飯石郡内に 1000 石以上の田地を所有していたとあり、寛政期には、飯石郡のみならず仁多、広瀬藩領、備後境まで広範囲に鉄山や鉄穴場も集積しています。弘化 4(1847) 年に、御主法入の際、提出した目録には、田畑、鉄山、鑪場、大鍛冶場、鉄穴場、仁多郡の三次に屋敷一軒、吉田と松江の魚町に酒造場を各一軒所有していたと報告され、安政 5(1858) 年までに松江米子町に貸家と魚町に屋敷を所有したと書かれています。上記の 2 人の先生方のご報告の中の鉄の流通および資産の形成を通して、田部家の松江城下町との関係を見ることができます。

今回の調査で借家経営に関するものを拾い出し表にしましたが、一件袋の番号を左に載せ、中にぎっしり史料がまとめられている状態だったのでひとつひとつに仮 No. をつけ、袋に書かれていた表題を史料名として載せています。この史料から昭和 10 年代まで借家経営をしたと考えられます。

松江市米子町は、松江赤十字病院の東側で、自性院、海乗院というお寺があり通りには「海乗院自性院通り」と名前が付けられており小さな公園があり整備されています。「松江松平城下町絵図」の(文政 8(1825) 年から嘉永 4(1851) 年に作成されたと推定される絵図) 米子町の部分をみると、木実方(藩主導で行われた櫛蟻製造を所管する役所) や藩士の屋敷と隣り合わせとなり、その一角にある町人地であることがわかり、末次、白瀧のようなまとまった町人地ではないことがわかります。

史料の宝暦から明和にかけて(1770~90 年頃) 14 年間の売券状の写し 5 通からは、菊屋、油屋、神門郡小山村の岡屋など町人から合計 12 か所の家屋敷を買い取っています。それ以後の史料からは、米子町の借家件数や借主、家賃、間取り、建築の際の大工の手間賃などさまざまな情報が盛り込まれています。史料の多くは、町人に付加する税金徴収と居住先の把握が目的でつくられたと考えられます。今回の見つかった米子町借家図面からは敷地全体の間数、借家ご

との家賃、敷地内の雪隠が記入されています。外側へコの字に並ぶ間口が大きい長屋が表借家（表店）と呼ばれ、比較的富裕層が住んでおり、内側に背中合わせに並ぶ長屋は裏借家（裏店）と呼ばれ下層町民が住んだといわれています。井戸や雪隠の場所が多く書かれていますが、ここは共同井戸共同トイレの一般的な借家で、図面の端書きから雪隠から回収される下肥は西川津、下川津村の農民が米で買い取り、田部家にとって家賃以外の重要な収入となっていたこともわかります。

借家の管理、家賃徴収は家主（田部家）にかわり家守が行っています。年に5回、家守が借主から家賃を徴収し諸役・諸入用との収支を計算して綿屋の出店へ報告し家賃を納めています。家賃未納もかなりあったようです。

今回の調査を通じてわかったことは三つあります。一つ目に、田部家が松江に屋敷を取得するのは従来考えられていたよりもっと古く、宝暦明和まで遡ることがわかりました。この時期は田部家が鉄師頭取として成長していった時期と重なり元禄の頃にはかなり形成していたといわれるので鉄師として有力であった時期に重なることもわかりました。松江の方でも大きな商家などが借家経営する時期と重なるので、田部家もタイミングを見計らって松江に進出し借家経営をしたと考えています。鉄生産とは関係ありませんが事業拡大ということで何か意図があったのではないかと思います。

二つ目に、今日紹介した米子町の借家の一連の史料はこれまでほとんど見ることはできなかった町人町関係史料であり、大変貴重な史料であると言えます。

三つ目に、魚町や壱町の綿屋の出店が借家経営に関わり、綿屋の拠点の一つとして機能していたことがわかりました。借家経営がどの程度綿屋の収益となったかは不明ですが、鉄の流通を含め松江で事業を展開することに意味があったのではないかと考えています。

## ②博物館講座

### 第1回博物館講座「たたら復元操業のビデオの鑑賞、たたらの変遷」

日時：平成24年7月14日（土）午前10時～午後12時

講師：江本孝枝（事業団職員）

参加料：300円

### 第2回博物館講座「たたら製鉄の技術をもった人たちの暮らし」

日時：平成24年10月13日（土）午前10時～午後12時

講師：江本孝枝、朝日光男（事業団職員）

参加料：300円

### 第3回博物館講座「田部家の製鉄の始まり、歴代当主と土蔵群について」

日時：平成25年1月12日（土）午前10時～午後12時

講師：江本孝枝（事業団職員）

参加料：300円

## 2) 体験事業

体験事業を通じて鉄の歴史と技術を理解し、習得する人材を育成するため、下記の事業を実施した。

### ①ものづくり大学

#### 1. 小だたら操業

ア) 菅谷たたら山内での（芽吹き祭り会場での）小だたら操業

期日：平成24年4月15日（日）

場所：菅谷たたら山内駐車場横 畑

記録：砂鉄 14.4 kg、操業木炭 17.0 kg、鋤 4.0 kg

対象：菅谷たたら山内来館者（芽吹きまつり会場来場者）

イ) オープンエアーミュージアムでの小だたら操業（中止。かわりに鍛冶実演見学）

期日：平成 24 年 5 月 4 日（金）

場所：オープンエアーミュージアム駐車場

内容：雨天のため小だたら操業は中止。鍛冶実演をして見学者を受け入れた。午前  
部のみの実施で、午後は見学者はあったが停電のため実演できなかった。

ウ) 弥生のムラものづくり研究会

期日：平成 24 年 11 月 14 日（木）

場所：和鋼生産研究開発施設

記録：砂鉄 16.0 kg、操業木炭 18.0 kg、鋺 3.5 kg

依頼：大分県 弥生のムラものづくり研究会（担当 有馬孝氏）

## 2. 近代だたら操業

期日：平成 10 月 31 日（水）～11 月 4 日（日）

場所：和鋼生産研究開発施設

参加者：たたら共同実習生 13 名、技術伝承者 2 名、ほか事業団職員 6 名

見学者：60 名（島根県、広島県、神奈川県、静岡県、山口県、福岡県）

スケジュール：

10 月 31 日（水） 8：00～17：00 灰床づくり・炉づくり

11 月 1 日（木） 9：30～17：00 炉の補修、炭切り、施設見学

2 日（金） 9：30～17：00 上釜設置、ミーティング、施設見学

3 日（土） 10：00 ミーティング

11：30 安全祈願、火入れ式

11：55 火入れ

15：00 初種

19：20 初花

4 日（日） 0：10～2：45 木炭のみ投入

9：45 砂鉄最終投入

11：55 送風停止

12：35 鋺出し（鋺は炉から落ちなかったが終了）

12 月 12 日（水） 鋺割り（出雲市(株)ダイハツメタル工場内）

今年の近代だたら操業は、鉄の歴史村フォーラムの日程より一週間早めて実施しました。近年参加者が減少する傾向にあるので、本来、近代だたら操業の体験内容は準備作業から 5 日かかる日程ですが、操業から鋺出しをする 2 日間のみ参加される方も同じように受け入れ、その方たち画遠方からでも参加しやすいスケジュールにして実施しました。

また、参加された方にじっくりと体験していただくため、限られたスタッフだけでは目が行き届かなかった安全面、作業説明などスタッフの補助的な役割で操業をサポートいただくために、2 名の技術伝承者の方に操業のお手伝いをいただきました。2 名の方は、島根県内にお住まいで過去 3 回以上近代だたら操業等、財団の体験事業に積極的にご参加いただいている方々です。村下は財団職員の杉原和樹が勤めました。

たたら共同実習生 13 名は、北は北海道、南は福岡県から参加いただきました。昨年も参加された方はそのうち 2 名で、20 歳代から 60 歳代の老若男女で一丸となって臨みました。地元島

根県内の実習生は少ない傾向にありましたが今回は2名おいでくださいました。

昨年から、操業用の木炭に地元産の雑炭を使っていますが、今年も昨年同様藤原利幸さんにお世話になりました。昨年は櫓がほとんどで、非常に硬くて重い木炭が多かったのですが、今年は櫓以外の木炭も混ぜてもらい、未炭化の部分が残るようにとお願いし、若干ではありますが、軽い炭を使うことができましたと思います。砂鉄、炉の設計、釜土の種類や配合、水分量は昨年通りとしました。

昨年の操業の反省点として、炉の温度をなかなか上げることができなかったことがあります。雑炭の特性を把握し切れていないということに尽きるのかもしれませんが、風に対して松炭ほど敏感でない雑炭は徐々にしか温度を上げていくことはできず、その時々々の炉の雰囲気に応じて、砂鉄の投入量を調整し、過投入に注意していくことを、事前に話し合っていました。また、木炭の大きさも切るというよりは砕いたような形状になり、小さくなりすぎた炭を混ぜないように注意しました。

1日目、10月31日水曜日の早朝薪に着火し、炉底の乾燥作業である灰床づくりをしました。初日から8名の実習生の参加がありました。灰木は径が20cmほどの櫓木を4～6等分に割り、炉底に7段ほど積み上げ着火させ、熾きになったところを「しなえ」と呼ばれる木で叩き熾きの塊を1.5cm以下に砕きます。この作業を3回してから、元釜を設置し、内部に土を張り付けていきます。土はV字状にし、そこに送風の穴、つまり羽口を設定し元釜が完成します。昨年まで水糸を使用していましたが、今年はあらかじめ炉に設定されている羽口に合わせて千鳥配置になるよう羽口を開けました。中釜の内部に土を張り、乾燥させて初日が終了しました。

2日目、11月1日木曜日は遅めの集合で、炉内のひび割れを直してから炭切りをしました。鉋で切る（割る）作業ですが、木の性質上、砕けてしまうものも多かったです。合計で720kgの雑炭を切り準備しました。作業ののちに、改修のはじまった菅谷たたら山内の見学をしてもらいました。

3日目、11月2日金曜日は上釜設置をし、ノロ出し口をふさぐ長炭を準備しました。たたら場内を清掃し、準備作業は終了しました。その後、鉄の未来科学館、たたら鍛冶工房、そして鉄の歴史博物館の見学をしてもらいました。

4日目11月3日土曜日、いよいよ操業がスタートしますが、この日から参加される方もあるので、ミーティングをし、2班編成で操業を進めていくことを確認にしました。その後火入れ式をし、いよいよ操業がスタートしました。

操業の立ち上がりは、炉の温度を十分に上げるため松炭を使いました。砂鉄を入れる頃には操業用に準備していた雑炭に切り替え送風圧を上げました。砂鉄投入以前に、炭の荷下がりの不均一な箇所がありました。砂鉄投入から4時間半後に初めてのノロ出し、初花を迎え、流れ銚を得ました。ここで十分に炉の温度が上昇したかと思われましたが、羽口の詰まりや塊のノロが始めたので、送風圧を上げました。その後、炉況の変化がなかなか見られなかったため、砂鉄の投入をやめ、木炭のみ投入し炉況の立て直しをしました。砂鉄投入を再開したのは日付が変わり11月4日になっていましたが、砂鉄を少量ずつ入れました。鋳出しからおよそ3時間前に砂鉄の投入をストップし、元釜を吊り上げ、鋳を出そうとしましたが、炉の中にくっついて取り出すことができず12時35分に作業を終了しました。

後日、炉から鋳を取り出し観察しましたが、炉の前側と後側で鋳が割れ、真ん中も空洞になっていました。12月スタッフと技術継承者で操業を振り返り、木炭と釜土についてこの雑炭は松炭に比べどのような特性があるのか、不適切な土の見分け方等について冬期間に試験を行うことになりました。その協議の後で鋳割りをしましたが、前側が炭素量の多い断面で後ろ側は炭素量の低い断面でした。

地域の材料を使って近代だたら操業をしていく上で、昨年度の検証を十分に行わなかったことを反省し、今後の操業の方法について、試験研究等を継続的にやり探していきたいと思います。

今年度の操業は、雲南市幸あり月プロジェクトに組み込んでいただき、雲南シティTVに操業の様子を24時間配信してもらい、多くのアクセスがありました。近代だたら操業の可能性を広げていただけたことに感謝いたします。実習生のほかにも県内外から60名の方にご見学いただき、たたらに炎に触れ、見学者の間で交流を深められました。

操業に際して、御神酒や差し入れを賛助会員の皆様を始め、多くの方に頂戴しました。多くの方に支えられて継続している近代だたら操業ですが、今後も誰でもたたらに炎に触れることができ、雲南市ならではの観光資源と認めていただけるようにしたいと思います。

### 3. 鍛冶体験

#### ア) 五寸釘のペーパーナイフづくり体験

期日 : 5月4日(金)、8月11日(土)、10月7日(日)、16日(火)

参加者 : 13名(5/4 2名、8/11 2名、10/7 2名、10/16 7名※島大留学生)

体験料 : 500 円/一作品

#### イ) 和鋼小刀づくり

期日 : 5月12日(土)

参加者 : 1名(出雲市 宇佐美隆一氏)

体験料 : 15,000円(鋼材代、保険料、町内3博物館入館料込み)

### 4. 鉄のおもしろ講座

#### ア) たたら鉄の材料はなに?～炭焼きと鉄穴流し体験～

期日 : 7月29日(日) 9:30～16:00

場所 : たたら鍛冶工房、芦原炭釜、菅谷たたら山内

講師 : 炭焼き(藤原利幸氏)、鉄穴流し場見学(清流クラブ 錦織靖雄氏)、  
鉄穴流し、菅谷たたら山内説明(朝日光男)

参加者 : 2人(大人 北九州市、安来市)

#### イ) ピカピカのお皿づくり～錫を使ってプチ工芸体験～

期日 : 8月12日(日) 9:00～、13:30～

場所 : たたら鍛冶工房

講師 : 高橋成和氏(賛助会員)

参加者 : 13名(午前8名、午後5名 大人3名、こども10名)

#### ウ) 五寸釘でオリジナルペーパーナイフづくり

期日 : 8月14日(火)

場所 : たたら鍛冶工房

講師 : 財団職員(杉原和樹、吉田利江)

参加者 : 13名(1回目 4名、2・3回目9名、雲南市7、出雲市4、広島市2)

#### エ) 鉄や金属のびっくり実験

期日 : 8月25日(土)

場所 : たたら鍛冶工房、鉄の未来科学館

講師 : 松江工業高等専門学校機械工学科准教授 新野邊幸市氏

参加者 : 4名(松江市、雲南市、大人2名、こども2名)

内容 : パソコンでデザインしたデザインをプレートに転写させてオリジナルキーホルダーを作成。液体窒素をつかい、固体・液体・気体となる物質の特性を学んだ。

### 5. 出張します!ものづくり号(出張小だたら操業)

#### ア) 鉄の道文化圏たたら公開講座での小だたら操業

期日：3月16日（土）

場所：古代鉄歌謡館（雲南市大東町）

対象：公開講座参加者

記録：砂鉄 13.0 kg、操業木炭 36.0 kg、鋤 2.0 kg

内容：鉄の道文化圏主催の「たたら公開講座」のイベントの一環で声をかけていただき、1日で炉づくりから操業まで行い、参加者に見学してもらった。

イ) 中国横断自動車道尾道松江線 開通プレイベント会場での小だたら操業

期日：3月17日（日）

場所：道の駅たたらば壱番地（雲南市吉田町 雲南吉田 IC）

対象：イベント参加者

記録：砂鉄 7.0 kg、操業木炭 10.0 kg、鋤 1.6 kg

内容：高速道路開通記念イベントの実行委員会からの依頼で小だたら操業を実施し来場者に見学いただいた。

6. その他体験

ア) 松江工業高等専門学校3年生との小だたら体験とその鋤を使った刃物づくり

期日：5月19日（土）、20日（日）

場所：和鋼生産研究開発施設、たたら鍛冶工房

記録：砂鉄 16.0 kg、操業木炭 19.0 kg、鋤 4.3 kg

人数：14名（機械工学科3年生）

所要時間：2日（炉づくりから操業・鋤出し、鋤の鍛錬見学）

その他：学生と共に小だたら操業をし刃物づくりを体験してもらう取り組み。今回で5年目となった。併せて3博物館の見学も実施。6月23日（土）に高専実習工場で鍛造体験。

イ) 柗吉田ふるさと村 観光事業部主催のツアーへの協力

期日：3月9日（土）～10日（日）

場所：和鋼生産研究開発施設、たたら鍛冶工房

記録：砂鉄 23.4 kg、操業木炭 25.0 kg、鋤 3.6 kg

人数：2名（出雲市、岡山県倉敷市）

所要時間：2日（炉づくりから操業・鋤出し、鋤の鍛錬見学）

その他：社員教育や学術団体向けの体験ツアーメニューを確立するため、小だたら操業体験と2博物館見学をするプレ催行ツアーを実施。

ウ) 安芸太田町での隅屋鉄山絵巻初公開イベントへの協力

日時：6月2日（土）～3日（日）

場所：広島県山県郡 安芸太田町 川・森・文化・交流センター

エ) 在来知研究会への協力について

日時：8月8日（水）

場所：吉田健康福祉センター（2階 集団指導室）、町内3博物館

参加者：7名（佐賀大学名誉教授長野 暹氏ら6名、相良英輔氏、吉田利江）

その他 : 佐賀大学を中心に活動される在来知研究会のフィールドワーク兼発表会が行われ、メインの発表は相良理事が行い、近代だたら操業について吉田が発表した。

オ) 出雲市立西野小学校でのたたら学習指導

日時: 9月20日(水)

場所: 出雲市立西野小学校(出雲市斐川町富村)

出張者: 吉田利江

その他: 4年生の総合的な学習の時間に画像や実際の鋸や鍛冶工程サンプルを持参し説明した。

カ) 島根大学留学生小だたら操業とペーパーナイフづくり体験

期日: 10月6日(土)~7日(日)

場所: 和鋼生産研究開発施設およびたたら鍛冶工房

記録: 砂鉄 12.8 kg、操業木炭 18.0 kg、鋸 3.5 kg

参加者: 13名

その他: 小だたら操業体験の合間に、交代でペーパーナイフづくりも体験。

## ②鉄・体感イベントの実施(たたら火焰まつり)

### 1. 菅谷たたら芽吹きまつり

期日: 4月14日(土)~15日(日)

共催: 榊吉田ふるさと村、清流クラブ、農事組合法人すがや、惺々会

内容: 小だたら操業、3D映像上映、写真展、軽食、農産物販売、抹茶点前、いっぷく茶屋こがね

### 2. たたら火焰まつり

期日: 8月26日(日)

共催: 榊吉田ふるさと村、清流クラブ、農事組合法人すがや、惺々会、NPO法人森の一滴、たたら火焰太鼓

内容: 菅谷高殿思い出写真館、やまめのつかみ取り・販売、菅谷屋台村、たたら火焰太鼓上演、いっぷく茶屋こがね

## 3) 公開展示施設の運営と活用

### ①記録映画「和鋼風土記」の多言語化

多言語版制作(英語、中国語、韓国語)の原版、DVD

### ②2D・3D「菅谷たたら山内」の多言語化

多言語版制作(英語、中国語、韓国語)の原版、DVD

### ③特別展・作品展の実施

#### 1. 山田ひさ子と仲間たち—植物画展

場所: 鉄の歴史博物館

期間: 4月17日(火)~5月20日(日)

内容: 植物の水彩画作品44点、絵具一式、植物図鑑、混色見本

協力: 山田ひさ子氏とその生徒(出雲市多伎町)

来場: 682名

#### 2. 錯視の世界—だまし絵展

場所: 鉄の歴史博物館



期間：7月21日（土）～8月26日（日）

内容：錯覚絵30点、万華鏡6点

協力：三輪良孝氏（大阪市在住）

来場：613名

3. 鉄の歴史博物館創作館展示（特別展を除く）

名 称	出展者	期 間
山田ひさ子とその仲間たち	山田ひさ子他	4月17日～5月20日
器 展	吉田陶芸クラブ	6月1日～30日
だまし絵展	財団	7月21日～8月26日
桂の木 四季折々の写真展	財団	9月1日～30日
第1回フォトコン作品展	財団	1月8日～2月28日
内藤 伸 資料展示	財団	3月1日～31日

4. ひこうき

場所：鉄の未来科学館

期間：4月20日（金）～5月20日（日）

内容：パネル展示、飛行実演

協力：所沢航空記念館、出雲空港、日本航空

④委託管理業務

1. 菅谷たたら山内及び周辺施設
2. 鉄の歴史博物館
3. 鉄の未来科学館
4. 地域特産品処理加工施設

4) 表彰、コンクールの実施

鉄の歴史村フォトコンテスト2012

テーマ：“赤”のある風景

応募数：142点（前年度47点）

賞：最優秀賞1点、優秀賞2点、入選4点、代表理事賞1点

2. 博物館等公開展示施設における商品の販売（収益事業）

1) オリジナル商品の開発、販売

ア) 和鋼小刀

イ) 和鋼商品(携帯ストラップ、鉬ちゃん、鉬ボトル)

ウ) 「菅谷たたらとカツラの木」商品（ポストカード、クリアーファイル、小風呂敷）

2) 委託商品販売

岐阜県関市、高知県香美市、新潟県三条市

3. 管理部門

賛助会員の確保と普及活動

- 1) 来館者、体験事業、フォーラム参加者等への働きかけ
- 2) ホームページ、賛助会誌での事業のPR
- 3) 賛助会誌「たたらの里山だより」の発行（年3回）